

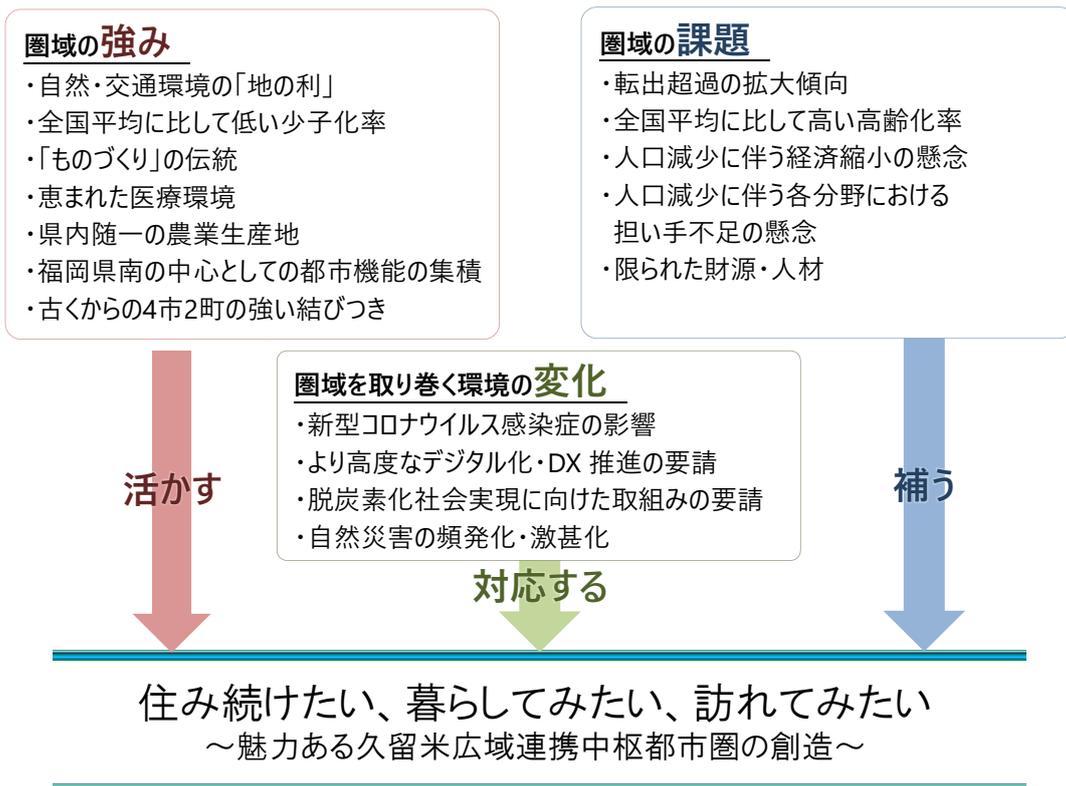
第3章 圏域が目指す将来像

1. 圏域が目指す将来像

第1期ビジョン（平成28年度～令和3年度）の期間中、当圏域の人口は社人研推計値（平成25年）の43.9万人を上回り、37.1万人と推計されていた2040年の人口は、直近の推計値（平成30年）では40.5万人とされています。また、経済面においては、圏域の総生産額が1兆3,866億円（平成27年）から1兆4,063億円（平成30年）に増加するなどの状況が見られます。

しかしながら、今後さらに人口減少・超高齢化が加速し経済や社会活動が縮小することへの懸念や、これらに対応するための財源や人材に限られていること、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化とこれに伴う大きな社会変化が訪れていること等をふまえると、今後も圏域の4市2町がそれぞれの地方創生の取組みを進めていくとともに、相互に協力して人口の減少傾向を食い止め、次代を担う子どもたちに誇りを持って引き継ぐことができる地域社会を確立していくことが必要と考えられます。

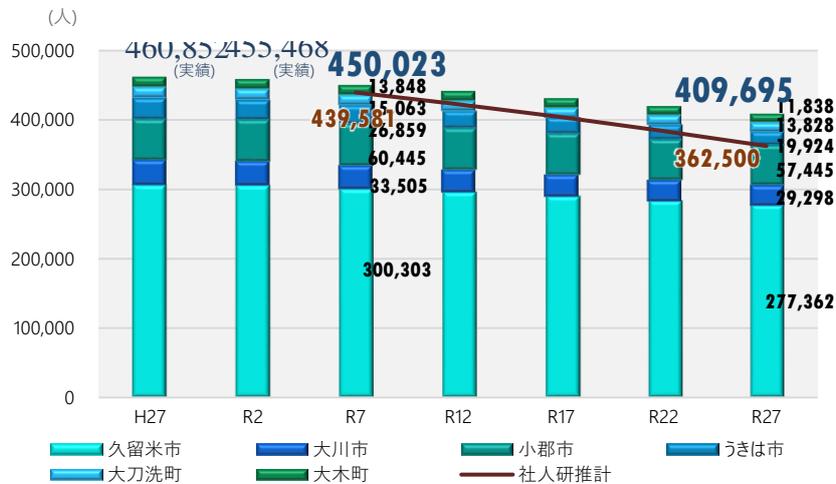
そこで、第2期ビジョンにおいても、引き続き、誰もが「住み続けたい、暮らしてみたい、訪れてみたい」と実感できる魅力あふれる圏域を創造し、福岡県南地域における経済・文化の中心地域として自主自立的に発展可能な圏域づくりを進めることとします。



2. 人口展望

(1) 圏域の将来人口（住民基本台帳）

各市町における地方創生の取組みや本ビジョンの推進の結果として、令和7年度末における目標人口(住民基本台帳)を**45万人**（国立社会保障・人口問題研究所推計に基づく住基人口換算値では約44.0万人）に、目指す将来像実現の結果として、令和27年度末の人口展望を**41万人**（同換算値では約36.3万人）に設定します。



(2) 人口構成の展望

圏域の高齢化率については、令和27年度に36.7%に達する国立社会保障・人口問題研究所の推計に対し、33.9%を見込みます。



出典) (1) (2) : 各市町人口ビジョン将来展望及び国立社会保障・人口問題研究所推計人口(H30)

注) 本ビジョン期間中の経年変化を把握するため、各市町展望値・社人研推計値を各年度末における住民基本台帳人口に換算して算出